

地域で高齢者を見守る・支えるシンポジウム アンケート調査

～ 調査結果 報告書 ～

平成24年10月
北海道 砂川市

参加者220名のうち149名の方から回答をいただき、回収率は67.7%でした。

1. あなた自身のことをおしえてください。

a 年齢

1-a		件数	割合
1	10代	0	0.0
2	20代	3	2.0
3	30代	11	7.4
4	40代	21	14.1
5	50代	30	20.1
6	60代	45	30.2
7	70代以上	39	26.2
8	未回答	0	0.0
合計		149	100.0

◆ 60代の方が30.2%で1番多く、60代以上が50.64%で半数以上でした。

b 性別

1-b		件数	割合
1	男性	75	50.3
2	女性	74	49.7
3	未回答	0	0.0
合計		149	100.0

◆ 男女均等に來られていました。

c 住まい

1-c		件数	割合
1	市内	125	83.9
2	市外	22	14.8
-	未回答	2	1.3
合計		149	100.0

◆ 市内の方が8割以上でした。

2. あなたは、地域包括支援センターを知っていますか。

2		件数	割合
1	よく知っている	77	51.7
2	知っている	51	34.2
3	あまり知らない	18	12.1
4	知らない	3	2.0
-	未回答	0	0.0
合計		149	100.0

◆ よく知っている、知っている方が85.9%で、包括支援センターの認知度は比較的高いと考えられます。

3. あなたは、今回の「シンポジウム」をどのように知りましたか。（複数回答可）

3		全体	件数	割合
1	広報すながわ	145	69	47.6
2	市のホームページ	145	15	10.3
3	チラシ	145	40	27.6
4	ポスター	145	26	17.9
5	町内会回覧板	145	20	13.8
6	友人・知人	145	9	6.2
7	新聞	145	2	1.4
8	その他	145	25	17.2
-	未回答	145	4	2.8
合計		-	210	144.8

※ 割合は、回答数149人に対する割合です。

◆ 広報すながわが46.3%で半数近くでした。また、チラシ、ポスター、町内会回覧版での周知方法も半数以上の答えがあり一定の効果がありました。

その他回答

- ・事務所、地域包括支援センターからの案内
- ・関係者
- ・メール
- ・職場の呼びかけ
- ・会議や講座など

4. あなたは、今回の「シンポジウム」の内容についてどう思いますか。

Q4		件数	割合
1	非常に参考になった	56	37.6
2	参考になった	72	48.3
3	あまり参考にならなかった	4	2.7
4	参考にならなかった	0	0.0
5	その他	0	0.0
-	未回答	17	11.4
合計		149	100.0

◆ 非常に参考になった、参考になったが85.9%となっており、効果のあるシンポジウムになったと考えられます。

どのようなところが参考になった、または参考にならなかったか理由をお聞かせください。

非常に参考になった理由

- ・現場での経験を通した話で、とても共感ができた。自分も「いつまで生きたい」か決めてみたいと思う
- ・遺品整理の現場から故人の生き様について
- ・DVDの内容
- ・高齢化が益々進む中、地域でのつながり・見守りの大切さ
- ・自分や家族の将来を考える機会となった
- ・個人が強く孤立死にならないよう意識することが大切ということ
- ・若いうちから社会（人との）つながりを大切にする事の大切さ

- ・自分の生き方が遺された人に与える影響について
- ・近所との付き合いが大切で、遠くの親戚より近くの他人のように、近所を少しの事でも気にかけるということ
- ・遺品整理の重要性（特に独居の方は日頃からの整理が必要かと）
- ・他人事ではなく、身近なことと感じた
- ・若者の孤立化防止策を考える事が自身の孤立化防止策につながるということ
- ・自分の人生の目標を具体的にたて、趣味を持ち、ポジティブに生き、今までした事がない事をやってみるといいということ
- ・多少迷惑になったとしても、積極的に自分の方からコミュニケーションをとっていく事が、孤立死をまぬがれる事につながるということ
- ・生前より死後の方がいろいろと迷惑をかけること

参考になった理由

- ・孤立死を防ぐには自助の機能も大切だということ
- ・地域とのつながり・声かけの双方は必要と改めて感じた
- ・40年経過したら問題にならない社会
- ・孤立死は、高齢者に限ったことではなく、50歳代が危険だということ
- ・孤立死などをあらためて考える機会となった
- ・孤立死すると他人に迷惑をかけるということ
- ・これからの生き方について考えさせられた
- ・周囲が死後苦にならないような生き方、生活の仕方が大切であること
- ・遺品に対する考え方、今後の生活を自覚的に過ごすための考え方
- ・「迷惑をかけない」ということにも、いろいろ種類があるということを知った
- ・自分はあと何年生きるのか。その期間に何をするのかを考えてみる事の意義について

あまり参考にならなかった理由

- ・地域福祉や地域の間人関係をどう考えていくのかの答えがみつからなかった
- ・砂川市の取組は10年以上前から実施されていた事が前線に出てきたと思う。介護保険制度施行時に比べると、ケアマネジャーや居宅サービスにより孤立はある程度その前より減少していると思うが、高齢者率が上がっているなので今の現状だと思う

未回答

- ・孤立しないようにするには日頃の生活をどのように気をつけて生活すると良いか、事例をあげて話をしてほしい

5. あなたは、孤立死を身近な問題だと感じますか。

Q5		件数	割合
1	非常に感じる	65	43.6
2	まあまあ感じる	68	45.6
3	あまり感じない	12	8.1
4	全く感じない	0	0.0
-	未回答	4	2.7
合計		149	100.0

◆ 非常に感じる、まあまあ感じると答えた方が89.2%で、9割近くの方が身近な問題だと感じていました。

※非常に感じる、またはまあまあ感じると答えた方に質問です。孤立死を身近に感じる理由をお聞かせください。（複数回答可）

Q5- a		全体	件数	割合
1	高齢者の一人暮らしが増えているから	133	107	80.5
2	家族・親戚が近くに住んでいないから	133	41	30.8
3	近所との付き合いなど人間関係が希薄になっているから	133	78	58.6
4	あまり外出していないから	133	9	6.8
5	その他	133	14	10.5
-	未回答	133	3	2.3
合計		-	252	189.5

※ 割合は、感じると回答した133人に対する割合です。

◆ 高齢者の一人暮らしが増えているからと回答した方が8割で、近所との付き合いなど人間関係が希薄になっているからと回答した方は6割近くでした。

その他回答

- ・平和ボケしているから
- ・他人に興味がないから
- ・報道等で話題になることが多い
- ・独居だから
- ・障害をかかえている
- ・過去に町内で起きたため

6. あなたは、高齢者を孤立させないために見守るには何が重要だと思いますか。

Q6		全体	件数	割合
1	日頃の挨拶・声かけ、近所付き合い	144	137	95.1
2	日常的な見守り活動	144	74	51.4
3	町内会・サロン活動などのふれあい、交流	144	71	49.3
4	緊急通報・対応体制の整備	144	41	28.5
5	除雪やごみ出しなどの生活支援（ボランティア）	144	38	26.4
6	その他	144	13	9.0
-	未回答	144	5	3.5
合計		-	379	263.2

※ 割合は、回答者数149人に対する割合です。

◆ 日頃の挨拶・声かけ、近所付き合いと回答された方が、9割でした。

その他回答

- ・定時報告サービスの提供（ICT、ITCネットワークの整備）
- ・「意識」を各自が持ってもらうような取り組み
- ・家族との付き合い
- ・高齢者を地域活動や仲間との付き合いをするようにしていくこと
- ・サロン活動などで外に出ることや、集う場をつくること
- ・一人暮らし高齢者（二人暮らしでも認知症・障害があれば同様）の状況がどういうものなのかを把握すること
- ・昔のような、他人であって身内のような関係性をどれだけ大切か忘れてはいけない

- ・組織（相互）的見守り活動
- ・機会を作る必要はあるが、参加・不参加は本人の意思だと思う
- ・見守られる側の意識が変わらなければ、どんな活動をしてもうまくいかない
- ・一人ひとりの孤立しない、させないという意識が大切
- ・高齢者同士のつながりを強くする
- ・本人の意識を変えるのは、なかなか難しいので、なじみのきっかけを専門職で切り開かないと地域住民だけでは大変。今は、専門職の力と考えが必要
- ・孤立死は完全に防げない。日頃から地域の方との付き合いが一番大事
- ・自立（自律）する気持ちを持って行動
- ・人間関係を円満にする

Q7.その他ご自由にご意見、ご感想をお聞かせください。

- ・今後も様々な企画をお願いしたい。コミュニケーションをつくる。また、人と知り合える機会を作ってもらいたい。
- ・フォーラムの目的がよく分からなかった。参加者に何を考えるきっかけにしたかったのか、焦点が絞られていなかった。
- ・今後も何回かこのようなシンポジウムを続けてほしいと思う。身近な問題なので、皆で考えていくことが大切で防止もできると思う。
- ・高齢者ばかりでなく、地域や習い事(サークル活動)、友人としてなどコミュニケーションを自発的にとっていくことが大切だと思う。
- ・一人暮らしの方が、一人で亡くなることはありえるし、仕方がない部分もあると思うが、その死亡が、1日でも早く気がついてもらえる体制が大切なのだと思う。家族や親せきからの電話や友人からの手紙・連絡なども必要。町内会などでは、班編成などで見守るシステムも必要。町内会の回覧板などは、止まると不在かが分かるので有効なものだと思う。一人ひとりが、ちょっとおせっかいな気持ちを持って、隣の様子を気にかけることも必要
- ・ついついそのうちと親の顔を見に行けない時がある。せめて電話だけでも大切にしたい。そして、自分が子供にやさしい言葉をかけられた時には感謝することもコミュニケーションの一つだと忘れないようにしたい
- ・孤立死と孤独死は違うこと。死後の処理をいかに他に迷惑にならないかを考えることが大切。
- ・高齢化の問題も30、40年経つと問題がなくなるという視点に納得した。だからといって、無視してもいいということではなく、大局的に大きな見通しの中で早急に取り組まないといけないとあらためて考えた
- ・全国初の試みの砂川市の条例化において、社会参加に対する考えを前に出した方が孤立死を防げると考える
- ・今後、また吉田氏の講演を聞きたい
- ・砂川市はこの事について結構熱心に活動しているが、まだまだ機会がなくこの様なすばらしい話を聞きたくても来られない方もいるので、度々この様な機会をもうけてもらいたい
- ゴキンジョ
- ・護近所付き合いの進め
- ・市による見守りのための条例化は貴重な第一歩であると思う。町内の役員が意識し、一年一年積み重ねていく手が大切で、条例化による対応をあせらず、じっくりと時間をかけて取り組むようにしたい
- ・高齢者は、町内会や会合に出席しないことが多いので、どうしたら出席する様になるのか

- ・できるだけ多く、地域の人との交流ができるような場所づくりをしてほしい
- ・40、50代の方々の考え方や今後の生き方の指針を頂いた様に思う
- ・貴重な経験談を直接聴かせて頂き、今後の生き方を再構築しなければと切実に考えさせられた
- ・87町内では世帯数が多く、高齢者の見守りは難しい。少数世帯での班ごとで活動できる様にしてはどうか。